

【睦合北地区】令和7年度あつぎタウンミーティング実施結果

日 時: 令和7年8月28日(木) 午後4時45分～午後6時00分
 会 場: 睦合北公民館 1階大会議室
 参加者: 地区の自治会長(5名)、公民館地区館長
 市長、副市長、教育長、企画部長、企画部次長、公民館・地区市民センター長

自治会長からの意見	市長等からの回答
意見1 避難所運営の新組織について	
<p>【根岸自治会】</p> <p>■災害対応として、自治会長を含む自治会役員は自主防災隊隊員に加え、避難所運営委員会の委員にもなっているため、災害が起きたら、自治会内の対応に追われることになります。</p> <p>市全体で50%を少し超えるほどの自治会加入率や、自治会役員が2年で交代する事が多い点を踏まえ、未加入者も含めた長期的な別組織にする必要があると考え、災害時に対応できるような組織づくりを提案します。</p> <p>また、避難所での生活を想定して、スフィア基準を満たすように環境を整備することも課題です。例えば、避難所での個人のスペースは3.5㎡で約2畳分の確保が定められていますが、現在想定されている避難所でこれだけのスペースを人数分確保することは難しいのではないかと考えています。あくまでも基準ではありますが少しでも差が縮まるように取り組んでほしいと思います。国のスフィア基準を満たすよう取り組んでいくという発表に準じ、市でも取り組んでいくのではないかと考えていますが、市の考えをお聞かせください。</p>	<p>■災害時には自助・共助・公助の連携が重要であるとともに、さらに身近な近所の助け合いも重要です。平時から、自主防災隊等の地域住民の代表者や施設管理者、市職員を中心に、避難所運営委員会を組織し、運営マニュアルの整備や避難所開設訓練等に取り組んでいただいています。</p> <p>災害時には、避難所運営委員会のメンバーが参集できないケース等も想定されるため、運営マニュアル等に基づき、避難された方々が協力しあって避難所運営を行う体制を整える必要があると認識しています。</p> <p>特に、災害時にリーダーシップを発揮できるボランティアや地域住民の中から指導者を育成することが重要であるため、市では今年度から、防災のスペシャリストである防災士の資格取得講座を開催し、今後3年間で150人の防災士を育成を目指しています。防災士がリーダーシップをとり、地域で活躍することにより、地域の安心安全、命と暮らし、そして笑顔を守ることができると考えています。</p> <p>今後においても、防災士を中心に、地域住民が運営マニュアルを理解し、実際に避難所運営に携わることができるよう取り組んでいくので、地域全体が協力できる基盤作りへの御協力をお願いします。</p> <p>避難所環境の整備については、本市においても、スフィア基準を参考に、避難所内でのプライバシーを確保するための防災用テントや簡易ベッドの備蓄、トイレ環境の確保等に努めています。一人あたりの避難所生活の面積については、現在、3.3㎡を確保しています。各避難所によって面積の大きさ等が異なりますが、基準に沿うように今後も、適切な避難所運営に向けて取り組んでいきます。</p> <p>(担当課: 危機管理課)</p>
意見2 高齢者の移動支援に向けての体制づくりと運用について	
<p>【中三田第一自治会】</p> <p>■高齢化社会が進行する中で、一人暮らし高齢者も増えつつあり、日常の買い物や通院など、外出には公共交通機関のバスや高料金のタクシーを使わざるを得ません。また、自分のこども達も仕事などであてにできません。</p> <p>このように外出に困る高齢者への移動支援に向けて、地域での支援体制の構築が急務となっています。ボランティア団体、法人・民間組織等と連携協力し、自家用車を活用し安価で素早く対応できる運行体制づくりが必要と考えます。特に、ドライバーが安定して確保できる仕組みや、活動しやすい環境整備が課題です。例えば、各地区に移動支援をサポートする拠点を設け、高齢者が予約するようなシステムを構築すれば、高齢者に対して効率良く支援が行き渡ると思います。</p> <p>当面は、定期的なマイクロバスサービスの提供、買い物代行サービス、通院支援などを検討し、高齢者に広く周知させて利用拡大を図ることが大切です。</p> <p>このような支援を通じて、高齢者が社会とのつながりを持ち、安心して生活できる環境を整えることで、住み良い魅力あるまちづくりに貢献できると考えます。</p>	<p>■市内では、鳶尾、まつかげ台、森の里地区などでは、自主運営型のコミュニティバスを走らせていますが、利用者が少ないのが現状です。</p> <p>本市においては、高齢者の外出のきっかけづくりや社会参加の促進等として、高齢者の皆様に配布しているタクシーチケットについても拡大しているほか、かなちゃん手形の購入費の一部を助成しているので、活用をお願いします。</p> <p>買い物支援については、厚木市農業協同組合が運営している「ゆめみちゃん号」があり、現在、睦合北地区において巡回はありませんが、御要望がありましたらお申し出ください。また、地域見守り活動に関する協定を締結している「(株)いなげや」においても、移動スーパーとくし丸を運行しており、地域の見守りも担うとともに、棚沢などの睦合北地区周辺の買い物支援を行っています。引き続き、地域の皆様の移動支援を行うために、御意見をいただければと考えています。</p> <p>今後についても、移動販売車「ゆめみちゃん号」への補助を実施し、継続的・安定的な運行を図ることで、地産地消を推進するとともに、地域住民の買い物支援に取り組んでいきます。</p> <p>高齢者の移動支援については、かなちゃん手形は制度の変更がありますが、助成について検討し、皆様が助成を受けて移動しやすい環境づくりに、引き続き取り組んでいきます。</p> <p>(担当課: 地域包括ケア推進課、福祉総合支援課、農業政策課、都市計画課)</p>

意見3 若者が集う施設環境づくりについて	
<p>【中三田第一自治会】</p> <p>■本市は、県の中央に位置し、相模川水系と丹沢水系に挟まれた風光明媚な環境にあります。各地区では温泉郷や食事処、名店、四季の花の名所、ハイキングコースなど魅力ある観光スポットを有し、郷土の歴史や伝統芸能にも出会えます。しかしながら、中三田地区において、神社仏閣はありますが、特筆するものが見当たらず、範囲を広げても、本厚木駅を中心として大型店舗は少なく、娯楽施設などはほとんどありません。</p> <p>そこで、三川合流地点から中津川沿いに睦合北方面に向かった場所に、サイクリングロードやジョギングコースなどを人が集う施設の設置を提案します。また、新たなイベントとして、リバーサイドマラソン、多様なアクティビティを取り入れたBBQ、季節限定のライトアップ、アウトドアのイベントも組み合わせることでブランド化を図ることで若者から高齢者まで魅力を感じることができ</p> <p>ます。</p> <p>さらに、相模川リバーサイドに複合的なアミューズメントパークや、川辺を見ながら飲食できるフードコートなどの大型施設の建設が必要となります。若者を中心として話題になれば、市内外からの集客も期待でき、魅力あるまちづくりに貢献できるものと考えます。長期的な視野に立ったプロジェクト活動による検証が必要で、若者のアイデアを取り入れていくことも大切だと思います。</p> <p>先日、他自治体で新たな都市型スポーツの拠点として文化公園がオープンするという記事を見ました。様々なスポーツの練習場や、スタジオが設けられているそうです。今回の提案と似ている部分があると思い、紹介しました。</p> <p>今回の提案は、土地の確保が課題だと思いますが、若者が自由にチャレンジできる場所があることが、街の活性化につながると思うので、検討をお願いします。</p>	<p>■厚木市都市計画マスタープランにおいて、三田地区の河川沿いに広がる市街化調整区域については、営農環境の維持・向上を進めています。</p> <p>当該地区は市街化調整区域であるため、アミューズメントパーク等の大型施設の建設は難しい状況ですが、相模川、小鮎川、中津川が流れる自然豊かな環境を生かし、睦合北地区に若者が集まるような取組の必要性を認識しています。</p> <p>街内に、アミューズメントパークをつくり、厚木に人を集めたいという想いはありますが、土地の関係などで難しい部分があります。今回の御提案は、市内外からの集客も期待でき、魅力あるまちづくりにつながる御提案と認識していますので、市全体のまちづくりを考える中で、今後のまちづくりの参考としていきます。</p> <p>(担当課:都市計画課)</p>
意見4 公園の新設について	
<p>【根岸自治会】</p> <p>■睦合北地区でも、高齢化社会ではありますが、幼児や小・中学生のこどもがいる若い世帯も増えています。その一方で、こどもたちを自由に遊ばせる場所が近くにないと感じています。</p> <p>平常時は、こどもたちが遊べて、災害時は一時避難場所になる公園を新設することで、若い世代の定住促進及び災害に強い魅力あるまちづくりができるものと考えています。</p> <p>駅の周辺には公園が多いと感じていますが、「借りて住みたい街ランキング」や「買って住みたい街ランキング」で、ともに県内一位となったので駅周辺に公園が多いことも、市の一つの魅力であると感じています。是非、睦合北地区にも公園を増やしてほしいです。</p>	<p>■地区内に公園があることは、子育て世代にとっての魅力になると認識しています。市の公園については、「厚木市緑の基本計画」に基づき、市街化区域を中心に地域の偏りなく、こどもから高齢者まで幅広い市民が利用できる公園整備を進めることとなっています。</p> <p>睦合北地区への公園の新設については、土地の確保などの課題もあり、現在、対応は難しい状況ではありますが、公園についての皆様方の思いは受け止めました。</p> <p>(担当課:公園緑地課)</p>
意見5 若い世代に魅力あるまちづくりについて	
<p>【十日市場自治会】</p> <p>■睦合北地区は自然があり、生活に便利な街中へも近いです。街の活性化のためには、若い世代が重要だと思います。若い人の増加は雇用を生み、消費が発生することで税収増につながり、健全な財政運営ができます。駅周辺を中心とした若い世代が住みやすい街づくり、大きな公園、安全性の高い交通インフラの整備が、魅力あるまちづくりには必要です。</p>	<p>■市としても若い世代や子育て世代が集うまちとなることは、大変重要だと認識しています。市では、現在、100年に一度の契機と捉え、魅力あふれる厚木の玄関口を目指し、複合施設の整備や本厚木駅北口の生まれ変わりを進めています。本厚木駅北口地区を始め厚木バスセンター、厚木一番街及び市役所本庁舎周辺を含むエリアを面としてとらえ、商業・業務、行政、文化芸術など多様な都市機能を集積させるため、若い世代も含め市民の皆様が誇りに思えるまちの実現に向けて取り組んでいます。</p> <p>複合施設の整備については、令和9年度に供用開始を予定しており、本厚木駅北口地区の生まれ変わりについては、準備組合をはじめとした関係機関と連携し、市民の皆様からの要望把握に努めながら、検討を進めています。アミューあつぎについても子育て世帯に向けた活用方法を模索するとともに、市役所跡地の活用についても検討を進めています。</p> <p>今後についても、第11次厚木市総合計画の策定を進め、計画を実行していくことで、若い方が魅力を感じ、全国・全世界から憧れを抱かれるまちの実現に向けて取り組んでいきます。</p> <p>(担当課:市街地整備課)</p>